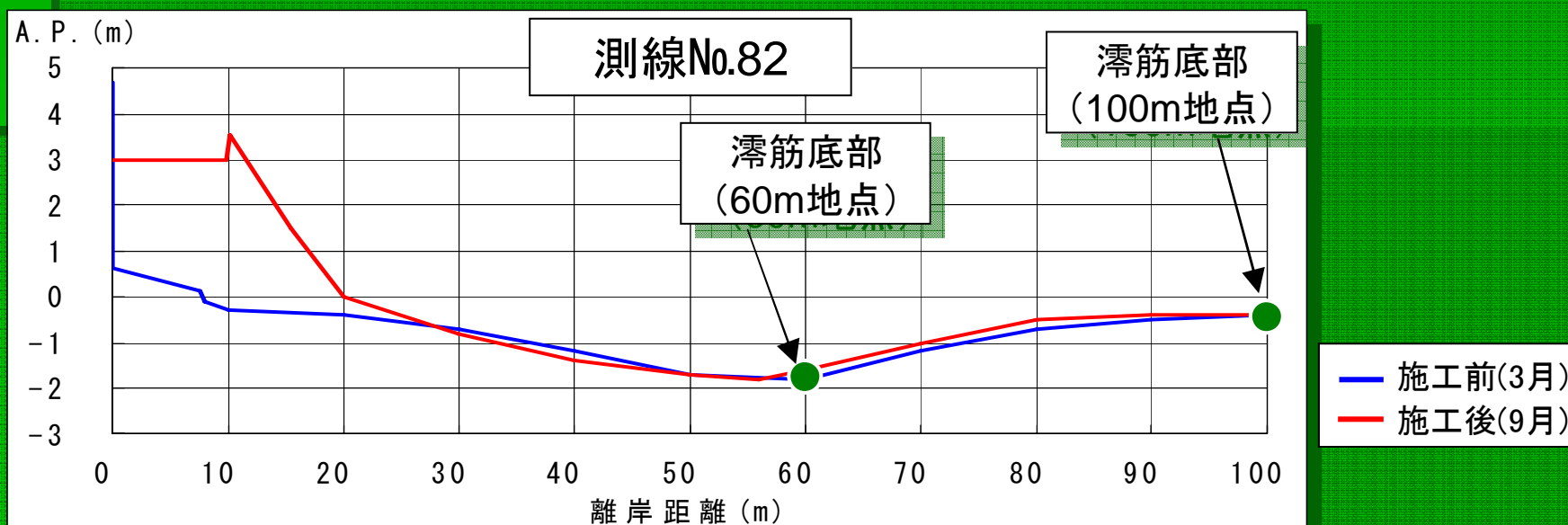


2. 環境 (1) 護岸部潮間帯への生物の着生状況 ② 着生密度

工事区域における潮間帯生物優占種の着生密度

	施工前(直立護岸)	→	施工後約1ヶ月(石積護岸)
滯筋底部 (60m地点)	<ul style="list-style-type: none"> ・種類数: 4種 ・ニンジンイソギンチャク (8個体/m²) ・キセワタガイ (8個体/m²) 		<ul style="list-style-type: none"> ・種類数: 6種 ・クロガネイソギンチャク (4個体/m²) ・マルスダレイガイ科 (8個体/m²)
100m地点	<ul style="list-style-type: none"> ・種類数: 5種 ・ツバサゴカイ (8個体/m²) ・アサリ (4個体/m²) 		<ul style="list-style-type: none"> ・種類数: 5種 ・ツバサゴカイ (20個体/m²) ・ウスカラシオツガイ (12個体/m²)



2. 環境 (1) 護岸部潮間帯への生物の着生状況 ③ その他考えられた効果



採餌場、隠れ場、幼稚仔の成育場としての利用を確認

- ・魚類

 - ボラ(稚魚)、メジナ(稚魚)

 - イダテンギンポ等のギンポ類、ハゼ類

- ・甲殻類

 - ケフサイソガニ、ヤドカリ類

- ・ボラの稚魚が採餌場(石積み表面の藻類を採餌)、また隠れ場として利用している状況を確認
- ・石積み部は周辺部に比較して透明度が高い様子がみられた。

2. 環境 (1) 護岸部潮間帯への生物の着生状況 ④ 他事例調査の結果

(1) 比較的最近施工された事例

千葉港海岸習志野地区、平成14年度竣工。(竣工後約4年経過)

3割勾配、被覆石は1トン

	施工後約2年 (平成17年3月)	→	施工後約4年 (平成18年9月調査)
高潮帯	種類数:8 マガキ:120個体/m ² イワフジツボ:80個体/m ²		種類数:5 イボニシ:116個体/m ² イワフジツボ:80個体/m ²
中潮帯	種類数:10 タテジマイソギンチャク:80個体/m ² マガキ:16個体/m ²		種類数:6 タテジマイソギンチャク:996個体/m ² マガキ:14個体/m ²
低潮帯	種類数:7 タテジマイソギンチャク:76個体/m ² マガキ:4個体/m ²		種類数:7 タテジマイソギンチャク:4個体/m ² マガキ:4個体/m ² 、イソガニ:16個体/m ²

※千葉港海岸習志野地区は、青潮の影響を受けやすいため、潮間帯生物の生息密度は変動が大きいものと考えられる。